

31:1 これらすべてのことが終わると、そこにいた全イスラエルはユダの町々に出て行き、石の柱を打ち砕き、アシェラ像を切り倒し、ユダ全土とベニヤミン、またエフライムとマナセの中にある高き所と祭壇を徹底的に壊した。そして、すべてのイスラエルの子らは、それぞれ自分の町、自分の所有地へ帰って行った。

31:2 ヒゼキヤは祭司とレビ人の組を定め、祭司とレビ人それぞれの組ごとに、その奉仕にしたがって全焼のささげ物と交わり of いけにえを献げさせ、さらに、主の宿営の門で仕え、告白し、賛美させた。

31:3 また王は、全焼のささげ物のために、自分の財産から自分の分を出した。すなわち、主の律法に記されているとおりに、朝夕の全焼のささげ物、また安息日、新月の祭り、例祭ごとに献げる全焼のささげ物をした。

31:4 さらに彼は、エルサレムに住む民に対して、祭司とレビ人の受ける分を与えるように命じた。祭司とレビ人が主の律法に専念するためであった。

31:5 この命令が広まるとともに、イスラエルの子らは、穀物、新しいぶどう酒、油、蜜など、畑のすべての収穫の初物をたくさん持って来た。彼らはすべての物の十分の一を豊富に携えて来た。

31:6 ユダの町々に住むイスラエルとユダの人々も、牛や羊の十分の一と、彼らの神、主に聖別した聖なるささげ物の十分の一を携えて来て、いくつもの山に積み上げた。

31:7 第三の月に彼らは積み始め、第七の月に終えた。

31:8 ヒゼキヤと高官たちは、やって来て積まれた山を見ると、主とその民イスラエルをほめたたえた。

31:9 ヒゼキヤが、その積まれた山について祭司とレビ人に説明を求めると、

31:10 ツァドク家の祭司の長アザルヤが、彼に答えて言った。「人々が奉納物を主の宮に携えて来ることを始めてから、食べて満ち足り、たくさん残るようになりました。主が御民を祝福されたので、その残りがこんなにたくさんあるのです。」

<説教>

朗読された聖書、Ⅱ歴代誌 31 章には、ヒゼキヤが南ユダ王国の王となった時に実行された十分の一のささげ物のことが記されています。

Ⅱ歴代誌では 29 章からヒゼキヤ王のことが記されています。

「ヒゼキヤは二十五歳で王となり、エルサレムで二十九年間、王であった。」(Ⅱ歴代 29:1) それは非常に困難な暗黒の時代でした。

すぐ後、ヒゼキヤ王の第 4 年に、大帝国アッシリアが南ユダ王国の兄弟国北イスラエル王国の首都サマリヤを包囲し、3 年後、ヒゼキヤの第 6 年にサマリヤは攻め取られることとなります (Ⅱ列王 18:9-10)

こうして北イスラエル王国は滅ぼされ、人々はアッシリヤに捕らえ移されてしまいます (Ⅱ列王 18:11)。

このアッシリア捕囚が起こるのが紀元前 720 ~ 722 年頃のことでした。

それは「彼らが彼らの神、主の御声に聞き従わず、その契約を破り、主のしもべモーセ

が命じたすべてのことに聞き従わず、これを行わなかったから」(Ⅱ列王 18:12)でした。

なお、Ⅱ列王 17:7-17 には「こうなったのは、イスラエルの子らが、自分たちをエジプトの地から連れ上り、エジプトの王ファラオの支配下から解放した自分たちの神、主に対して罪を犯し、…」と始まり、「…主の目に悪であることを行うことに身を任せ、主の怒りを引き起こした。」と、もっと詳しくこの北イスラエルの人々の神に対する罪が記されています。

「そのため主はイスラエルに対して激しく怒り、彼らを御前から除かれた。ただユダの部族だけが残った。」(Ⅱ列王 17:18) のでした。

しかし、南ユダ王国も、時には良い王も出ましたが、全体的には「ユダも、彼らの神、主の命令を守らず、イスラエルが取り入れた風習にしたがって歩んだ。」(Ⅱ列王 17:19) のでした。

そういう非常に困難な暗黒時代にヒゼキヤは王となったのです。

彼は王になるとすぐに、つまり「その治世の第一年の第一の月に」(Ⅱ歴代 29:3) 宗教改革を始めました。

それはエルサレムの「主の宮の戸を開いてこれらを修理」(Ⅱ歴代 29:3) することから始まりました。

ヒゼキヤはまず、神に仕え奉仕する務めを正しく行っていなかった(偶像礼拝に陥っていた) 祭司やレビ人に悔い改めを命じます。

神殿にあった偶像礼拝の用具を取り除き、捨てさせ、本来備えるべき神殿の用具備品を整え、聖別させました。

エルサレムの町の長たちを神殿に集めて、祭司・レビ人の正しい奉仕のもと、全焼のささげ物や感謝のささげ物を献げるようにしました。(29 章)

翌月(第二の月)には「イスラエル全土に通達を出し、エルサレムに来てイスラエルの神、主に過越のいけにえを献げるよう、呼びかけることを決定」します。

そして急ぎ使者を遣わして「イスラエルの子らよ、アブラハム、イサク、イスラエルの神、主に立ち返りなさい。…あなたがたの神、主は恵み深く、あわれみ深い方であり、あなたがたが主に立ち返るなら、あなたがたから御顔を背けられることはありません。」と呼びかけました。

滅ぼされた北イスラエルの人々の多くは急使を「笑いものにして嘲」りました。

しかし一部のへりくだった人々と、南ユダ王国の人々は「おびたしい数の大集団」となって「種なしパンの祭りをを行うためにエルサレム集ま」りました。

彼らは「七日の間、大きな喜びをもって種なしパンの祭りを行」い、「さらに七日間祭りをを行うことを決め、喜びをもって七日間、祭りを行」いました。

「こうして、ユダの全会衆、祭司とレビ人、イスラエルから来た全会衆、イスラエルの地から来た寄留者でユダに在住している者たちは、みな喜んだ。エルサレムには大きな喜びがあった。イスラエルの王、ダビデの子ソロモンの時代以来、エルサレムでこのようなことはなかったからである。レビ人の祭司たちが立ち上がって民を祝福した。彼らの声は聞き届けられ、彼らの祈りは、主の聖なる御住まいである天に届いた。」(30:25-27) のでした。

31:1 これらすべてのことが終わると、そこにいた全イスラエルはユダの町々に出て行き、石の柱を打ち砕き、アシェラ像を切り倒し、ユダ全土とベニヤミン、またエフライムとマナセの中にある高き所と祭壇を徹底的に壊した。そして、すべてのイスラエルの子らは、それぞれ自分の町、自分の所有地へ帰って行った。

主なる神に立ち返り、神殿で神のみこころにかなった礼拝を神にささげた「全イスラエル」「すべてのイスラエルの子ら」は、神殿を出てからは、神殿の外でもそれまで「ユダの町々」「ユダ全土とベニヤミン、またエフライムとマナセの中」にあったすべての偶像と偶像礼拝に関わる物を「徹底的に壊し」捨て去って、「それぞれ自分の町、自分の所有地へ帰って行った」のでした。

南ユダの王ヒゼキヤによるの宗教改革の良き影響は、兄弟国北イスラエルの一部にまで及んだのです。

このようにして二週間に渡って祝福され、喜びと感謝のうちにささげられた神礼拝は閉じられましたが、ヒゼキヤはそれが一時的、一回限りで終わってしまわないようにする必要がありますがありました。

ヒゼキヤは正しい神礼拝が続けてささげられる道を整えようと考えました。

31:2 ヒゼキヤは祭司とレビ人の組を定め、祭司とレビ人それぞれの組ごとに、その奉仕にしたがって全焼のささげ物と交わりのいけにえを献げさせ、さらに、主の宿営の門で仕え、告白し、賛美させた。

31:3 また王は、全焼のささげ物のために、自分の財産から自分の分を出した。すなわち、主の律法に記されているとおりに、朝夕の全焼のささげ物、また安息日、新月の祭り、例祭ごとに献げる全焼のささげ物をした。

「祭司とレビ人の組を定め」ることは、ダビデ王が定め（Ⅰ歴代 23-26 章）、息子ソロモン王も守った（Ⅱ歴代 8:14-15）ことでしたが、その後おろそかになっていました。

それをヒゼキヤは復活させ、日ごと、週ごと、月ごと、年ごとに「主の律法に記されているとおりに」正しく神殿で奉仕がささげられ、礼拝がささげられるようにしたのです。

そのためにヒゼキヤ王は率先してまず「自分の財産から自分の分を出し」て献げたのです。

31:4 さらに彼は、エルサレムに住む民に対して、祭司とレビ人の受ける分を与えるように命じた。祭司とレビ人が主の律法に専念するためであった。

「祭司とレビ人」が「主の律法に」定められた本来の勤めに生活の心配なく「専念するため」に「祭司とレビ人の受ける分を与えるように」ヒゼキヤは「エルサレムに住む民に対して」命じました。

すると、どういうことが起こったか。

31:5 この命令が広まるとともに、イスラエルの子らは、穀物、新しいぶどう酒、油、蜜

など、畑のすべての収穫の初物をたくさん持って来た。彼らはすべての物の十分の一を豊富に携えて来た。

31:6 ユダの町々に住むイスラエルとユダの人々も、牛や羊の十分の一と、彼らの神、主に聖別した聖なるささげ物の十分の一を携えて来て、いくつもの山に積み上げた。

31:7 第三の月に彼らは積み始め、第七の月に終えた。

31:8 ヒゼキヤと高官たちは、やって来て積まれた山を見ると、主とその民イスラエルをほめたたえた。

31:9 ヒゼキヤが、その積まれた山について祭司とレビ人に説明を求めると、

31:10 ツァドク家の祭司の長アザルヤが、彼に答えて言った。「人々が奉納物を主の宮に携えて来ることを始めてから、食べて満ち足り、たくさん残るようになりました。主が御民を祝福されたので、その残りがこんなにたくさんあるのです。」

「第三の月」から「第七の月」の五ヶ月間は「神から与えられる収穫の全期間」（新聖書注解）ということです。

ヒゼキヤの命令に応じてそれまでの偶像礼拝を悔い改め、偶像を捨てて主なる神に立ち返り、喜びと感謝をもって神に礼拝をささげた「イスラエルの子ら」「ユダの町々に住むイスラエルとユダの人々」でした。

彼らは「祭司とレビ人の受ける分を与えるように」というヒゼキヤの命令に応じて「穀物、新しいぶどう酒、油、蜜など、畑のすべての収穫の初物をたくさん持って来」、「すべての物の十分の一を豊富に携えて来」、「牛や羊の十分の一と、彼らの神、主に聖別した聖なるささげ物の十分の一を携えて来て、いくつもの山に積み上げた」のでした。

それは「主が御民を祝福された」からでした。

イスラエルとユダの人々が悔い改めて、「神、主は恵み深く、あわれみ深い方であり」、「主に立ち返るなら」、「御顔を背けられることはありません」（30:9）ということを感じたからでした。

人々が偶像礼拝をしていたときには偶像に献げ、また自分の欲のために浪費し、「十分の一の献げ物」もおろそかにしていました。

しかし、ヒゼキヤの命令を聞いて、悔い改めて偶像礼拝を止め、偶像を捨て、「主に身を献げ」（29:31）て主を礼拝した人々は、それで終わらず、「すべての収穫の初物をたくさん」「すべての物の十分の一を豊富に」「牛や羊の十分の一と、彼らの神、主に聖別した聖なるささげ物の十分の一を」感謝と喜びをもって主に献げ、主への奉仕に専念する祭司やレビ人の生活を支える者に変えられたのです。

山と積まれた「十分の一」他のささげ物はエルサレムだけでなく地方の町々にいる祭司やレビ人たちにも公平に分配されました。（31:11 以下）

こうしてイスラエルとユダの人々が神に立ち返り、神に正しく礼拝をささげ、忠実に「すべての物の十分の一」やその他のささげ物を献げ、それが祭司やレビ人たちに正しく分配されたことをもってヒゼキヤの悔い改め、宗教改革が「成し遂げられた」ことを歴代誌の記者は宣言するのです。

「ヒゼキヤはユダの全地でこのように行い、その神、主の前に、良いこと、正しいこと、真実なことを行った。彼が始めたすべてのわざにおいて、すなわち、神の宮の奉仕におい

て、律法において、命令において、彼は神を求め、心を尽くして行い、これを成し遂げた。」

(Ⅱ歴代 31:20-21)

ヒゼキヤのように真に悔い改め、感謝と喜びをもって神を礼拝する人は、自ら進んで自分自身を神に献げ、「すべての物の十分の一」(全収入の十分の一)を献げ、神の奉仕者(牧師・伝道者)がその勤めに専念できるように支えるのです。

そうやって自らを神に献げ、その信仰生活、神礼拝の生活を神に忠実にお献げし続けるのです。